

JACLaP WIRE No.56 (2003年3月4日発刊)

本メールは日本臨床検査専門医会の電子メール新聞 JACLaP WIRE No.56 です。

===== 目次 =====

[お知らせ]

1. 会員動向 (2003年2月25日現在数 645名, 専門医 448名)
2. 第13回日本臨床検査専門医会春季大会について
3. 第20回臨床検査専門医認定試験実施要領 (平成15年度)
4. 新規保険収載の検査項目 (2003年2月1日適用)
5. 日本臨床検査薬協会による体外診断用医薬品のプロモーションコードの改訂
6. 緊急臨床検査士と二級臨床検査士の資格認定試験について

[最新トピックス]

1. ポリオ

[MTJ (The Medical & Test Journal) から]

【2月1日号から】

日臨技・14年度代議員会 臨衛技法改正案、今国会の提出に意欲
芝紀代子教授ら エアーマッサージ、カルシウムやALTなどに影響
相模原協同病院中央検査室 動脈硬化の評価に頸動脈超音波検査を実施

【2月11日号から】

DPCに対応する特定機能病院 検査部は在院期間短縮支援が不可欠
厚労省 新型インフルエンザに備えて対応策を検討

【2月21日号から】

厚労省検討会 臨床検査技師の業務独占拡大に賛否両論
検査センターに独禁法違反で排除勧告
複数菌種を4時間弱で検出可能な迅速検査法開発

===== JACLaP WIRE =====

[お知らせ] 1. 会員動向 (2003年2月25日現在数 645名, 専門医 448名)

- 1) 新入会員

水野純子	先生	秋田市立総合病院検査科
上原 剛	先生	信州大学医学部付属病院臨床検査部
橋口 照人	先生	鹿児島大学医学部臨床検査医学
太田 善夫	先生	近畿大学医学部奈良病院臨床検査部
倉持 茂	先生	国立病院東京医療センター臨床検査科
吉澤 明彦	先生	信州大学医学部付属病院臨床検査部
谷口 信行	先生	自治医科大学臨床検査医学
真治 紀行	先生	岡山大学医学部付属病院中央検査部
滝本 寿郎	先生	春日部市立病院臨床検査科
大澤 春彦	先生	愛媛大学医学部臨床検査医学

2) 所属変更など

矢富 裕	先生	東京大学大学院医学系研究科 臨床病態検査医学分野 ・ 助教授 山梨大学医学部 臨床検査医学助教授より転籍
服部幸夫	先生	山口大学医学部保健学科病態検査学 山口大学医療技術短期大学衛生技術学科より転籍
田中秀央	先生	京都府立医科大学第二病理学 京都府立医科大学臨床検査医学より転籍
中井 利昭	先生	日本臨床検査自動化学会 (3/31 付け) 筑波大学医学系臨床病理より転籍予定
高遠 哲也	先生	聖隷浜松病院 磐田市立病院より転籍
水島 孝明	先生	岡山大学医学部付属病院中央検査部 米国留学から帰国
出原 賢治	先生	佐賀医科大学医学部分子生命科学講座 講座名変更

3) 訃報

重田 英夫 先生 2002 年 11 月ご逝去

事務局からのお知らせ・お願い

教育セミナー、GLM WS の参加者募集について

2 月 28 日に締め切りました。今年度も 40 名のご参加希望（2 月 27 日現在）がありました。会費の徴収通知をお届けいたしました。なるべく早めのお支払いをよろしく願いいたします。

住所、所属、E-mail address などの変更された先生は、事務局まで E-mail あるいは FAX でお届けください。日本臨床検査専門医会からの情報が届かなくなることがあります。

土屋 達行

日本大学医学部・臨床検査医学教室

駿河台日本大学病院・臨床検査医学科・臨床検査部

〒101-8309 千代田区神田駿河台 1-8-13

TEL : 03-3293-1711 (Ext.215)

FAX : 03-3293-9138

E-mail : tsuchiya@med.nihon-u.ac.jp

===== JACLAP WIRE =====

[お知らせ] 2. 第 13 回日本臨床検査専門医会春季大会について

山形大学の富永真琴教授のお世話で以下のように開催致します。
多数の会員の先生方のご参加をお願いいたします。

大会長：富永真琴（山形大学医学部臨床検査医学）

場所：山形テルサ 〒990-0828 山形市双葉町 1-2-3 TEL:023-646-6677

日時：平成 15 年 4 月 18 日（金）午後 5:00～午後 8:00

19 日（土）午前 9:00～午後 5:00

・平成 15 年 4 月 18 日（金）

I. 特別講演 <午後 5:00～午後 6:00>

「ポストゲノム時代の遺伝子検査の展望」

司会：富永真琴（山形大学医学部臨床検査医学）

演者：村松正明（ヒュービットジェノミクス社研究所）

II．懇親会　　＜午後 6:00～午後 8:00＞

・平成 15 年 4 月 19 日

III．フォーラム　　＜午前 9:00～午前 10:50＞

「知っておきたい検査」

司会：　　森三樹雄（獨協医科大学越谷病院臨床検査部）

1．H-FABP　　高木　康（昭和大学医学部臨床病理学）

2．KL-6　　神辺眞之（広島大学医学部臨床検査医学）

3．グリコアルブミン

武井　泉（慶応大学医学部中央検査部）

4．MMP-3　　山田俊幸（順天堂大学医学部臨床病理学）

5．インフルエンザ A/B 抗原検査

船渡忠男（東北大学大学院医学研究科分子診断学）

6．PWV/ABI　丸山征郎（鹿児島大学医学部臨床検査医学）

IV．Reversed CPC　　＜午前 11:00～午前 12:00＞

「左脛骨外顆骨折の手術後に急変した 67 歳の女性」

司会：　　下正　宗（東葛病院臨床検査科）

ディスカッサー：松尾収二（天理よろづ相談所病院臨床病理部）

諏訪部章（岩手医科大学臨床検査医学）

矢内　充（日本大学医学部臨床検査医学）

V．シンポジウム　　＜午後 1:00～午後 5:00＞

「病院マネジメント改革と臨床検査医」

司会：　　中原一彦　　（東京大学医学部臨床検査医学）

高橋伯夫　　（関西医科大学臨床検査医学）

1．感染症管理における臨床検査医の役割

一山　智　　（京都大学医学部臨床検査医学）

2．検査部マネージメントの改革

前川真人　　（浜松医科大学臨床検査医学）

3．ブランチラボの意識改革

木村　聡　　（昭和大学横浜市北部病院臨床検査科）

4．中央検査部における臨床検査医とは

三家登喜夫 (和歌山県立医科大学臨床検査医学)

5. 関連法規の整備の必要な検体検査業務 ミ 臨床検査医のしなければならないこと

佐守友博 (日本医学臨床検査研究所)

6. 臨床検査専門医は臨床医として生き残れるか ミ 一般内科医とも健診医とも異なる固有の診療を目指して -

西堀眞弘 (東京医科歯科大学附属病院検査科)

===== JACLaP WIRE =====

[お知らせ] 3. 第 20 回臨床検査専門医認定試験実施要領 (平成 15 年度)

平成 15 年 8 月 2 日 (土): 筆記試験、8 月 3 日 (日): 実技試験の日程により第 20 回臨床検査専門医認定試験を「東京医科大学病院」(新宿区)にて実施致します。

書類請求期間 平成 15 年 4 月 1 日 (火) から 4 月 30 日 (水) まで

願書提出期間 平成 15 年 5 月 6 日 (火) から 5 月 16 日 (金) まで

詳しくは臨床病理 51 巻 2 月号、またはホームページをご覧ください。

試験実施要領

URL: <http://www.jscp.org/CertifiedTraining/20Examin.htm>

===== JACLaP WIRE =====

[お知らせ] 4. 新規保険収載の検査項目 1 件 (2003 年 2 月 1 日適用)

血液化学検査

1. クロスラプス精密測定 (準用先区分 D007 - 33) (区分 D - 1)

保険点数: 220 点 定量検査

基準範囲: 治療開始後、治療前値より 33%以上減少したとき、陽性とする。

直線性: 100-6000ug/ml

製品名: フレライザ クロスラプス

製造元: Nordic Bioscience Diagnostics A/S, Herlev, Denmark

輸入発売元: 富士レビオ(株) Tel 03-5695-9210

測定法: 酵素免疫測定法(ELISA 法) 96 テスト/キット (シングル測定)

結果が出るまでの時間: 2 時間 30 分 自動化: 可

同時再現性：1.8～6.9%

日差再現性：4.9%～5.3%

検体：尿

【特徴】本試薬は、競合法による酵素免疫測定法(ELISA)試薬である。 クロスラプスを結合させたプレート(固相)に検体と第一抗体及び酵素標識抗体を加えて反応させると、検体中の クロスラプスと固相に結合した クロスラプスが第一抗体に競合的に反応し、更に酵素標識抗体が第一抗体に結合すると固相上に抗原抗体複合体が形成される。洗浄操作後、基質(テトラメチルベンジジン)を加えて反応させると、競合的に反応した検体中の クロスラプス量に応じて発色する。これに反応停止液を加えると反応が停止するので、この吸光度を波長 450nm にて測定し、同時に測定した クロスラプス標準液の吸光度から作成する標準曲線より クロスラプス濃度の算出を行うことができる。本キットは競合法を用いた酵素免疫測定法(ELISA 法)を原理として、尿中 クロスラプスを特異的に測定する試薬で骨吸収マーカーのひとつである。

今回の申請では クロスラプスの使用法を、骨粗鬆症の患者を対象とした HRT やビスフォスフォネート療法を実施した場合に、その治療効果判定および経過観察に限定している。

そこで、HRT(ホルモン補充法)やビスフォスフォネート療法(他の類似する治療法を含む)の治療効果の判定のために 6 か月後の クロスラプス値と 2 年後の骨塩量(DEXA 法)を調べた。即ち、HRT としてエストラジオールおよびチボロンを用いた治療法を同じ患者に継続実施し、6 か月後の クロスラプス値と治療 2 年後の骨塩量(DEXA 法)を調べたところ、それぞれ有病正診率 87% / 89%、無病正診率 77% / 62%、診断効率 84% / 84%とほぼ同等の結果が得られた。

同様に、ビスフォスフォネートにアレンドロネートおよびイバンドロネートを用いた治療法を同じ患者に継続実施し、6 か月後の クロスラプス値と治療 2 年後の骨塩量(DEXA 法)の変動率を見ると、それぞれ、有病正診率 90% / 85%、無病正診率 43% / 38%、診断効率 74% / 74%と大きな差異は認められなかった。

このことから、骨粗鬆症の患者に対し HRT やビスフォスフォネート療法(他の類似する治療法を含む)を実施した場合には、その治療効果判定および経過観察については、従来よりの治療 2 年後の骨塩量ではなくて、 クロスラプス値を測定することにより 6 か月後に、治療効果のあるもの(レスポーター)と、効果のないもの(ノンレスポーター)を鑑別することができるとしている。

骨粗鬆症の検査には、NTx(I 型コラーゲン架橋 N-テロペプチド)、DPD(デオキシピリジノリン)、BAP(骨性アルカリフォスファターゼ)、骨塩定量検査(DEXA 法)などが既に保険収載されている。これらの検査と比較すると、 クロスラプスは変動率が鋭敏で、臨床的価値が高い。即ち、健常人 8 例について閉経前、周閉経期、閉経後について クロスラプス、DPD、BAP についての変動を見たところ、 クロスラプスでは 100% / 180.9% / 245.8%、DPD では 100% / 140.0% / 168.8%、BAP では 100% / 132.3% / 161.6%

と クロスラプスの変動率が最も高値であった。また HRT として結合型エストロジオールを用い、治療後 6 か月と 12 か月のマーカーの変化を クロスラプスと NTx の値で見たところ、それぞれ - 48.3% / - 61.9%、- 34.0% / - 46.5%と クロスラプスの変化率が高値であった。

【保険請求上の注意】 クロスラプス精密測定は、骨粗鬆症におけるホルモン補充療法およびビスフォスフォネート療法等、骨吸収抑制能を有する薬物療法の治療効果判定または治療経過観察を行った場合に、区分「D007」血液化学検査の「33」に準じて算定できる。ただし、治療開始前においては 1 回、その後は 6 月以内に 1 回に限り算定できる。

【文献】折茂肇、他：CrossLaps の臨床的有用性の評価、新薬と臨床、47(5):674-717, 1998

===== JACLaP WIRE =====

[お知らせ]

5. 日本臨床検査薬協会による体外診断用医薬品のプロモーションコードの改訂

日本臨床検査薬協会による体外診断用医薬品プロモーションコードの下記のような改訂がありました。

金銭類の提供および寄付（検査関連機器を含む）

1. 会員会社は、直接であれ、間接であれ、体外診断用医薬品の使用に影響を与えるおそれのある金銭類を医療関係者又は医療機関等に提供をしてはならない。会員会社が、医療関係者または医療機関等に提供できる金銭は、社会通念を越えて過大とならないよう留意しなければならない。

2. 会員会社は、体外診断用医薬品の取引誘引をする手段として、医療機関等に寄付（金銭及び検査関連機器）をしてはならない。会員会社が、医療機関等に提供できる正当な寄付は、「学術振興、社会福祉その他の公益的目的で行う寄付」である。

===== JACLaP WIRE =====

[お知らせ] 6. 緊急臨床検査士と二級臨床検査士の資格認定試験について

検査部の検査技師の皆さんに受験をするよう勧めてください。

第 22 回(関東)・第 23 回(関西)緊急臨床検査士資格認定試験実施要領

試験期日 平成 15 年 7 月 20 日(日)

願書提出期限 平成 15 年 4 月 1 日(火)より 4 月 10 日(木)まで

第 87 回(関東)・第 88 回(関西)二級臨床検査士資格認定試験実施要領

試験期日 平成 15 年 7 月 26 日(土)、7 月 27 日(日)、の予定

正確な期日・場所は受験票交付時に通知する。

願書提出期限 平成 15 年 4 月 1 日(火)より 4 月 10 日(木)まで

連絡先

〒101-0031 東京都千代田区東神田 1 丁目 11 番 4 号(東神田藤井ビル 5 階)

日本臨床検査同学院緊急試験係

電話(03)5825-3477 日

詳細は Web Site: <http://www.jslm.org/>をごらんください。

===== JACLaP WIRE =====

【最新トピックス】 1. ポリオ

ポリオ(小児麻痺)は、ポリオウイルスによる感染性疾患で、主に 3 歳以下の子供に感染し、中枢神経を攻撃し筋肉を麻痺させる。ポリオウイルスには 3 型あるが、1 型が最も頻度が多く毒性も強い。ポリオウイルスは経口感染し、発熱、易疲労性、頭痛、嘔吐、頸部硬直、四肢痛などの症状を呈する。5~10%は呼吸筋が麻痺するために死亡する。200 例中 1 例は四肢麻痺を起こす。

WHO では 2000 年までに自然界にあるポリオウイルスを撲滅する計画を立てた。WHO はポリオを撲滅するために、経口ポリオワクチン(1 回投与は 0.08 米ドル)を全世界の流行地の小児に投与し、ポリオの発症を激減させた。しかし、2002 年になってもポリオ患者は現在 7 か国で流行し、その大部分の患者(85%)はインド、パキスタン、ナイジェリアにいる。日本では 1980 年を最後に野生株によるポリオ患者の報告はない。

(獨協医大越谷病院臨床検査部教授 森 三樹雄)

===== JACLaP WIRE =====

【M T J (The Medical & Test Journal) 2 月 1 日号から】

日臨技・14 年度代議員会 臨衛技法改正案、今国会の提出に意欲

日本臨床衛生検査技師会の平成 14 年度代議員会が 1 月 25 日、日臨技会館で開かれ、岩田進会長(日大板橋病院)は臨床検査技師、衛生検査技師に関する在り方等検討会の検討結果をうけ、今通常国会に提案されるよう働きかけていきたいとの考えをあらためて表明した。

芝紀代子教授ら エアーマッサージ、カルシウムや A L T などに影響

東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科の芝紀代子教授ら研究グループは、健康器具・エアーマッサージが血清成分に及ぼす影響について検討した結果、カルシウムや A L P、A S T、アルブミン、C R P、総コレステロール、H D L コレステロール、L D L コレステロールなど

の検査値に特に影響があったことを明らかにした。これは1月17日、横浜市で開催中の日本健診医学会第31回大会で報告した。

相模原協同病院中央検査室 動脈硬化の評価に頸動脈超音波検査を実施

相模原協同病院中央検査室は、動脈硬化の評価として頸動脈の超音波検査を実施、MRIや心臓カテーテル検査を行うまえのスクリーニングとして行っている。寺島茂室長は、「超音波検査装置の解像力の向上、探触子の改良によって簡便に、非侵襲的に検査が可能となった。頸動脈のプラークの存在や内中膜壁厚（IMT）の増高は、全身的な動脈硬化性疾患が予測され、年齢、高血圧、糖尿病、高脂血症、喫煙などの動脈硬化危険因子とも密接に関連している」と同病院での研究成果を明らかにした。

【MTJ（The Medical & Test Journal）2月11日号から】

DPCに対応する特定機能病院 検査部は在院期間短縮支援が不可欠

4月から特定機能病院に導入される予定の診断群分類（DPC：Diagnosis Procedure Combination）包括払いでは、検体検査管理加算（入院のみ）と同の算定は、検査料の包括範囲に含まれて単独の算定ができなくなる。関西医科大学病院の高橋伯夫副病院長（臨床検査医学教授・DPC担当責任者）は2月1日、本紙の取材に対し、「関西医科大学病院は検体検査管理加算の算定で年間7000～8000万円の収入を上げている。今後、日本臨床検査医学会などで指導管理料として復活するように行政に働きかけてもらいたい」と述べた。

厚労省 新型インフルエンザに備えて対応策を検討

厚生労働省の厚生科学審議会感染症分科会は2月4日、感染症部会の下に「新型インフルエンザ対策に関する検討小委員会」を設置することを決めた。新型インフルエンザは、既存のウイルス株が大きく変異したもので、従来のワクチンが効かないことから、大流行を引き起こす可能性が高い。検討小委は、新型インフルエンザの特徴を踏まえ、発生動向からワクチン・治療薬の供給、発生時の対応、医療提供体制の各段階で対応策を検討し、新型インフルエンザの発生に備える。

【MTJ（The Medical & Test Journal）2月21日号から】

厚労省検討会 臨床検査技師の業務独占拡大に賛否両論

厚生労働省の「臨床検査技師、衛生検査技師に関する在り方等検討会」が2月17日、都内で開かれ、臨床検査技師の業務独占分野の拡大（輸血検査、遺伝子検査など）などについて協議を進めた。日本医師会委員からは、検体検査の一部業務制限に対して前回同様に「反対」との

見解があらためて示された。

検査センターに独禁法違反で排除勧告

公正取引委員会は2月13日、東京都、名古屋地区、大阪府、福岡地区の国公立病院などの外部委託検体検査の受注に入札参加している検査センターに対し、独占禁止法に違反（不当な取引制限の禁止）しているとして、その排除勧告を行った。

複数菌種を4時間弱で検出可能な迅速検査法開発

東北大学医学部救急医学の小池薫助教授らと北里大塚バイオメディカルアッセイ研究所は、救命救急センター入院患者の複数菌種を4時間弱で迅速検査ができるマルチプレックスPCR（multiplex PCR）法を共同開発していることが2月15日、横浜市で開かれた日本環境感染学会総会学術集会で発表された。

=====

JACLaP WIRE, No.56 (2003年3月4日発行)

発行：日本臨床検査医会 [情報・出版委員会]

編集：JACLaP WIRE 編集室 編集主幹：満田年宏

記事・購読（配信）・広告等に関するお問い合わせ先：

〒236-0004 横浜市金沢区福浦3-9 横浜市立大学医学部臨床検査部医局内

e-mail：jaclap_wire@yahoo.co.jp

TEL:045-787-2721 FAX:045-786-0392

日本臨床検査医会ホームページ：<http://www.jaclap.org/>

JACLaP WIRE バックナンバー：<http://www.jaclap.org/wire/index.html#TOP>

会員の皆様からの寄稿をお待ちしております！

メーリングリスト配信先の変更には

1.氏名、2.現行登録アドレスと3.変更希望メールアドレスを添え

てjaclap_wire@yahoo.co.jpまで「配信先の変更希望」としてお送り下さい。
